

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 99

2011年5月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



オニヤンマ 撮影 坂

「第七回通常総会のお知らせ」

うしく里山の会代表理事

坂 弘毅

里山の象徴 自然を育む生きものたち

東日本大震災は史上空前の自然災害となつてしまいました。多くの方々が罹災され、今なお避難所生活という不自由な生活を余儀なくされています。うしく里山の会の皆様のご親族も罹災された方もいらっしゃるかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて、平成二十三年度は、うしく里山の会にとって新たな出発の年になります。平成十八年四月、法人格を取つたばかりのうしく里山の会が牛久市で最初の指定管理者に選ばれてから五年、牛久自然観察の森の来園者は倍増し、六万人を超える実績を残し第一期指定管理者を滞りなく完了出来ましたことを御礼申し上げます。これも偏に、職員のためぬ努力が功を奏したものであり、里山の会の誠実な活動が評価された結果であると確信しております。

そして、新たな出発の年とは、平成二十三年度より牛久自然観察の森の第二期指定管理者を獲得することが出来たことです。第二期は、観察の森にいらつしやるお客様へのおもてなしの心（ホスピタリティ）を重視し、新たな牛久自然観察の森の構築と共に、会の財政基盤を構築するため、収益事業を開始します。

今後、うしく里山の会は地域から期待される法人として、その活動領域はますます広がっていくと思っておりますが、旧来に倍して皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。さて、平成二十三年度通常総会が下記の日程で開催されますのでご出席のほどお願い申し上げます。

記

日時 平成二十三年五月十五日（日）

十時～十二時

会場 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

総会終了後、午後一時より観察の森周辺と日頃

お世話になつてゐる結束町の清掃を行います。

午後の部もご協力ください。

議案書は後日郵送させていただきます。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



雑木林応援隊

原口 愛子

東北地方太平洋沖地震に思う

二〇一一年三月十一日十四時四十六分、東日本にM9.0の巨大地震が発生し、東北、関東の太平洋側は最大三八・九mの巨大津波に襲われ、未曾有の大被害をもたらした。

その後、原発事故による放射能や余震におびえる日が続き、今までのような穏やかな生活を取り戻すことができるのはいつになるのか、不安な毎日が続いている。

テレビなどの映像では、緊迫した津波の状況とともに、何十万人にものぼる避難所の人達の悲痛な声や、ガレキの前に立ちすくむ姿が流される。そのよくなとき感じるのは、東北人独特のボクトツさである。口数少なく、自分より周りを気遣い、あくまでも礼儀正しく、人を押し付けたりは恥すべき事と列を乱さず、静かに時を待つ。良くも悪くも悲しくもDNAとして刻み込まれているかのごとく・・・なのである。

東北人である宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の一説「雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ、丈夫なからだをもち、慾はなく、



被災地の人たちに「頑張れ！」と言っているような満開の桜

決して怒らず、いつも静かに笑っている、

一日に玄米四合と、味噌と少しの野菜を食べ、あらゆることを、自分を勘定に入らずに・・・日照りの時は

涙を流し、寒さの夏はおるおる歩き、みんなにでくのぼーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず、そついうものに、わたしは、なりたいたい・・・

これ以上「がんばれ」というのは酷かもしれないが、「何とか気持ち強くして、復興に向けて立ち上がってください」と思っているのは、日本人のみならず、世界の人の共通した思いであろう。

一ヶ月近くそんな余震の続く四月十日の作業は、五月の炭焼き時に窯の下に敷く竹を切って運び、細かに割って準備、そして炭小屋前の葡萄棚の補強を行った。地震にも耐えるよう新しい筋交いを打ち付ける会員達の腕は確かで、相変わらずその仕事ぶりはプロも顔負けのようである。

ふと気がつくとも梅林の花は散り、桜が満開の季節になっっている。今年の桜はなぜかいつもの騒がしさもなく、戸惑っているようでもあり、美しく、寂しく、そして悲しそつにも見える。



力強く組み上げられるぶどう棚



親子農業体験講座
横山 さえ子

体験を通じて

豊かな里山の環境を未来に引き継ぐ！

「広報うしく」での募集の日が、東日本大震災の当日でした。「こんな時にすみませんが・・・」との前置きで申込みをされる皆さんでした。お互いに被害がないかたずねあい、無事なことを確認しながらの受け付けでした。

十二日の福島第一原子力発電所のほうが問題でした。北風に乗って放射性物質が飛んでこないか、放射線量はいくつ？結局じゃがいもの植え付けは、二週間のばしました。

親子農業体験講座を銘うってはじまったのは三年前ですが、九年前のそばからはじまった活動です。

例年、観察の森のレンジャーを中心として、種まきからそば打ちまでが行われていました。当時はそば打ちだけに参加できました。レンジャーのメンバーが変わり、畑も草だらけ、そばも作らないといえます。そば打ちをしたかったら、種をまくしかない。石神園長と丸ちゃんと三人で、種まきをしたことを思い出します。

今年は国際色豊かです。カナダ人のお父さん（とても楽しかったそうです）、韓国からのお母さんが参加されています。子どもたちにとっては、初めての農業体験のようです。

「豊かな里山の環境を未来に引継ぐ・・・」の未来の世代が参加しています。

才から小学校低学年の子どもたちと親です。ご夫婦の参加が多いのも嬉しいことです。一年を通じての活動ですので、お互いに名前も覚えていきます。ちゃんはまだ？とここでの友情が育っています。いっぱいいる生き物も人気です。

カエルにトカゲ、カナヘビ、バッタなどに会える場所になっていきます。毎回ムシカゴ持参の子も何人かいます。

また、植えた作物が口に入るまでには時間が必要だし、お店に売っているように全部同じ大きさではないこともわかってきます。自分の作ったものは小さいものも大切で、おいしいから収穫祭ではいっぱい食べます。

今年も、子どもたち、大人たちに十分楽しんでもらえる活動になるよう願っています。



じゃがいもの種をつくる子どもたち
前田



巨木リサーチ2事業報告

羽賀 正雄

「牛久の巨樹」の編集・執筆にかかわって

さとやまの会の「巨木リサーチ事業」に参加してから丸五年 今回は「牛久の巨樹」と「事業報告書」というすばらしいプレゼントをいただきました。この二冊 親子に例えれば「報告書」が親で、「巨樹」がその子供に当たるでしょう。そして、同時に発刊されたことですばらしさが倍増しました。

テーマの編集・執筆 担当した幹周G・診断G

についての原稿書きと、その関係から編集委員会の一人となりました。

まず原稿については、「報告書」で担当したのは「幹周・樹冠幅の測定法と測定結果」及び「診断結果」です。まとめるに当たっては、測定・調査方法、実施上の問題点について具体的に記述する、調査データは、基礎データを主体に正確に整理する、その上で データについて若干の分析を行なう、ことに留意しました。 において新たな視点としては、幹周・樹高・樹冠幅のデータから巨樹の代表四樹種について、平均樹形を求め比較のため同一縮尺で図示しています。また、に関連して「市民の木」の幹の形状と幹周測定位置を示したスケッチを掲載しています。「巨樹」の写真と合わせると、臨場感が高まることと思います。「巨樹」においては、 から各々の測定方法、から各々のベスト20などそのエキスを簡潔に表現するよう努めました。 次いで編集については、昨年四月から本年一月まで十三回に及ぶ編集委員会（十名）において行なわれました。委員会は、責任者（渡辺代表）の強いリードのもとに



駒沢家のキンモクセイ(正直町)
屋根の上に広がる樹冠
金花芳香値千金
白井 08.10.10

進められました。両書の構成から語句の表現にいたるまで、全てを委員会により決定するという姿勢で終始されたことが、大きな成果につながったものと考えます。まさに三人寄れば・・・で、論議の中から多くの知恵が生まれています。

先ず編集方針として、「巨樹」は市民向けの写真を主体としたガイドブックとする、「報告書」は事業活動の総括的記録とすることが合意され、これを基本に作業が始まりました。

「巨樹」について触れますと、写真は一点一点吟味されその結果、再・再々撮影になったものが相当数ありました。その都度写しに行かれた写真Gの皆様の熱意には脱帽でした。説明文は 道案内、 掲載木



解説、 社寺の由来の順となっております。この中で意外に手間を取ったのが、現地は細い脇道が多いため、適切な表現をめぐって侃々諤々(カンカンガクガク)でした。文章は分りやすさを基本としながら、専門用語は適宜使用することとし、別に用語解説を設けたのは正解でした。印刷までに全文を三回見直し、一字一句、少しでも気になる表現は論議のうえ修正されました。メンバーは十人十色、いろいろな視点から意見が交わされたことにより表現が豊かになりました。

完成品 見事な出来映えです。市民の皆様には喜ばれると思います。緑の街・牛久市の財産となることでしょう。巨樹たちも笑みを浮かべているようです。関係された多くの方々には厚く御礼申し上げます。



里山自然観察隊

本田 寛

今年度第一回目の「植物観察会」について

四月九日(土)に予定していた今年度第一回目の「植物観察会」を天候不順のため中止しましたので今月の活動報告はそれに先だって行った下見の状況を報告します。

観察会のテーマは「各種スミレの花を主に春の草木の花を見る」。場所は毎年の定番コースである市内城中町・新地町。下見の実施日は四月五日(火)。当日午前九時、集合場所である城中町得月院前駐車場に集合したのは観察隊メンバー四名と特別参加のNさん。

メンバーが揃ったところで今年新たに牛久城址をコースに加えるか否か協議し、本番時のコースを得月院前駐車場を起点に、城中街道、牛久城址からカツパの碑へ、更に、稲荷神社沿いの坂道からアヤマ園への農道、三日月橋、東林寺の裏(西側)、東林寺城址(土壘・空掘)、新地町の庚申塔で折り返し出発地に戻る約五キロの行程に設定。

その後早速ターゲット。昨年の観察会のデータを参考にスミレを探しながら歩く。

途中アヤマ園で昼食。本番時のトイレ休憩を予定していた所であるが先の大地震のためトイレが使用禁止に



身近に広く生えている ヒメオドリコソウ

なっており三日月橋生涯学習センターも使用できない状況で対応を検討しなければならぬことに。天気は快晴、爽やかな春風が吹き、膨らんだサクラの蕾やコブシの純白の花が印象的で、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ナズナ等の野草も赤、青、白の可愛い小さな花を付け気持ちよさを和ませてくれました。

下見で開花・存在を確認できたスミレはタチツボスミレ、コスミレ、アメリカスミレサイシン、スミレ、ヒメスミレ、アオイスミレ等未確定のものも含め六種。昨年とは十種。また昨年群生地だったカツパの碑周辺の草地・梅林、稲荷神社土手、庚申塔周囲でも株数は多くはない。



ただ、タチツボスミレは各所で確認でき、得月院前駐車場に近い坂道脇の日当たりの良い空き地ではコスミレが見事に群生し、例年であれば開花期が過ぎているアオイスミレも各所で確認。アメリカスミレサイシンは数株。濃紅紫色のスミレ科スミレが一株。ヒメスミレも一株確認。一方、昨年群生していたマルバスミレ、一株観察できたツボスミレが今年は見ることができなかった。

今年は昨年に比べ確認できたスミレの種類、株数、群生地も少なかったが、これは今年の冬の寒さが厳しく春の訪れが遅れたことや下草刈り等の管理が強化されているためか。

午後二時近く得月院前駐車場に帰着。



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

桜とともにスタートしたアヤマ園

年を明けて二月十四日から始まった今年の作業だが、今年もきれいな花菖蒲を咲かせることを皆で誓い合った。

三月の作業は、新しく広がった田圃の整備・池の中の増えすぎたスイレンの除去・池の周囲の補修整備などを中心に展開した。

新しい田圃には、赤土を二トトラックで六台分購入し、作業用通路を作ったところに一輪車で敷き込んだ。三月前半までは霜解けのためぬかるみになるので作業もやりにくい。しかし、大半の赤土を敷き込むとなんとか地盤が固まり、人が通れる通路に仕上がってきた。当初、近くの農家の方にトラクターで整地してもらったが、泥深く無理とわかり手作業でおこなうこととなった。泥に長靴がとられ悪戦苦闘の作業になる。しかし、根気強く作業をおこなうことと、田圃に溜まった水をぬくこと（あちこちに水路を作った）によつて、三月中にはどうか楽に田圃に入るところまでになった。作業用の通路も泥に汚れることなく通れるようになった。



今年の七月以降の株分け時には新しい田圃に苗を植えこむことも可能と思う。新しい二千mの田圃が、一面花菖蒲の花にうまった景観は壮大な事と思つ。

一方、池のスイレンも池全体を覆って開花する頃には水面が見えなくなつてしまう。見学者は広い水面の上に咲くスイレンが見たいと話される。何人かで胴長を履き、期待に応えようと余分なスイレンの除去に奮闘する。

しかし、抜き取ったスイレンの根の処分も大変なことである。ヘドロに包まれた根はある程度乾燥させ新しい田んぼの通路に敷き詰めることにした。

このように花菖蒲が咲きだすまでの見えない作業は、本当に大変なものである。しかし、時々散策に訪れる方がねぎらいの言葉をかけてくれるのが嬉しい。私たちが一番安らかなになれる瞬間であり「是非シーズンには来て下さい」と応える。

三月十一日、東日本大震災にみまわれ、その後も続く余震。何度かアヤマ園の作業中にも余震があった。そのたびに池の水が大きく波打つ。

しかし、日一日と春の陽気が近付き、花菖蒲の新芽も大きくなりはじめ、何となく畝も若草色になってきた。同時に雑草も伸び始め、いつの間にか十cm位の大きさになり、雑草と私たちの追いかけてつこになる。すでにスタートラインはきられた。今年も負けずに頑張ろう。

四月半ば、三日月橋周辺の桜も満開状態。花見に訪れる人々も多く、アヤマ園のなかにもシートを敷き桜の花を満喫するグループも多く見られた。

(イラスト 久保田)



一般寄稿

佐藤 輝雄

東日本大震災支援活動に参加して

四月十日、十三日の四日間、牛久市から東日本大震災への災害支援のため、宮城県亘理町に市の職員二名、うしく里山の会四名（福田・成井・廣川・佐藤）計六名が「第四次派遣チーム」として派遣された。

出発日の朝、牛久市長の挨拶を受けたあと、二トトラックを含め二台の車に便乗して、八時三十分市役所を出発した。

東北道を北進していったが、福島県に近づくとつれて道路の復旧工事、また所々道路に段差があるなど道路事情は悪かった。宮城県内は時速五十キロの速度制限。仙台南部道路を通って亘理町に向かったが、途中、名取市に入ると道路の東側（海側）に津波に襲われた悲惨な場所が現れた。一瞬「なんだ、これは！」

皆、目を疑った。これから被災地を走ることになる。気分が引き締まった。現地には十六時三十分到着し「第三次グループ」と引継ぎを行う。



出発当日、牛久市長から激励のことばの後、一こま坂



津波に遭った被災地

現地では各地（海外・国内）から集められた支援物資を避難所に搬送する仕事になる。

震災から一ヶ月を過ぎ、非難された方々は心身ともに

相当疲労されていると思うが、比較的明るく過ごされていた。私達がトラックから荷物をおろしている

が、現地は想像以上の悲惨な状態だった。現地に行くまではテレビや新聞の報道で知っただけだが、強烈なこの目で見る光景、耳で聴く声、この臭いはこの場所にいる者にしか感じられない被災地そのものである。

私たちは福井県や岐阜県の医療チームと同じ建物に滞在していたが、個人のボランティアもテントを設営し数多くの方がいたが、彼らも泥まみれで作業場から戻り、水がでないため他から運んできた少ない水で全身を洗い流している。

復興にはかなりの時間がかかると思うが、このような支援者がいる限り先は見えてくる。私達も可能な限り支援を続けたいと感じた今回の体験である。

東日本大震災の被災報告(その二) チーフコーディネーター 齊藤 孝

先月号では本震発生時の状況をお知らせしました。今回は施設の被害状況等報告をいたします。

来園者の誘導完了後、臨時閉園とし、職員は一部（非常勤職員・震災の対応で定時以降も臨時業務に従事していた者）が帰宅、残りの職員で余震に備えながら施設点検を行った。

センター内では元々ネジなどで固定されていた文書キャビネットやカメラ棚、プリント棚が倒れ、書籍類が散乱していたが、年に一度の展示会（森の作品展）用の写真やカードカービング、はく製ケー

閉館時の施設については、窓枠やドアサッシの変形も無かったことで、通常の閉館作業を実施することが出来た。また、観察舎方面は、立入禁止のコーンやバーを設置し、立ち入り規制を実施した。

外部への連絡については、本震直後から固定電話及び携帯電話が全て不通だったが、午後四時過ぎにようやく市役所代表とつながったため、担当課である緑化推進課にまわしてもらえよう依頼したが、電話受付窓口の職員より「全ての職員が庁舎外に出ており、現状ではどの課にもおつなぎできません」と伝えられた。伝言を託す事も難しいと伝えられたため、止



む無く閉館後の午後六時責任者の齊藤が状況報告の為に市役所分庁舎に向かい緑化推進課長に被害状況（負傷者ゼロ、建物に一部破損が起きていること、明日は臨時休園する旨など）を報告した。ちなみに本震後、当日は一件だけ外部から電話が通じたが、これは



ネーチャーセンター内 事務室カメラ棚



観察舎入口中壁



ネイチャーセンター内
カウンター横
プリンター棚



観察舎新置き場



観察舎ガラス戸



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ



牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

五月の活動日時

六日(金)午前九時～十一時半

第三日曜日の活動は総会開催のため中止

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長スボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当:石神

身近な樹木 No.2 イボタノキ

モクセイ科イボタノキ属の広葉樹の落葉低木。北海道南部から九州の山野に自生する陽樹で、明るい林や林縁などに生育する。牛久では斜面林下部の藪や林縁、川縁などに見られる。

樹高二～四m。樹皮は灰白色で、幹には所々に刺があり、若枝には細かい毛がある。葉は単葉で対生し、長さ二～五cmの長楕円形で、鈍頭あるいは両端が尖り菱形に近いものもあり、薄くて光沢がなく、裏面の中肋沿いの基部にまばらな毛がある。縁は滑らかである。

花は五～六月、写真のように当年枝の先に長さ二～四cmの総状花序を出し、長さ約8mmの花を多数つける。花冠は白色、漏斗形で、先が四裂し、芳香がある。果実は広楕円状の球形で、長さ六～七mm、秋に紫黒色に熟す。

樹皮にはイボタロウムシ(カイガラムシの一種)の雄の幼虫が集団で白い口ウ(蠟)を分泌する。これは「白蠟」と呼ばれ、工業用蠟としてワックなど利用される他、家具や漆器の艶出しに使われる。名前はイボタロウムシに由来する。また刈り込みに強いため、生け垣に広く使われている。

(平塚芳雄)



総状花序 渡辺 04.5.13

2011年 5月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1 雑木林応援隊 9:00炭屋 (炭焼き) 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関	2 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	3 (憲法記念日)	4 (みどりの日)	5 (こどもの日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	6 Eコアップ作戦 9:00NC クラブプロジェクト 13:00NC	7 親子農業体験講座 9:00畑
8 雑木林応援隊 9:00炭屋	9 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10 森の畑 9:30畑	11	12 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P (会報等原稿ど切)	13	14 里山自然観察隊 (E・列ノ里地調査) 9:00得月院P
15 運営委員会9:00NC 総会10:00NC 結束リターン作戦 13:00NC 臨時理事会 (リターン作戦後)	16 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17 (休園日) チーム'街路樹20(受) 8:30市役所ランティAC	18 (休園日)	19 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	20 クラブプロジェクト 13:00NC	21 親子農業体験講座 9:00畑
22 雑木林応援隊 9:00炭屋	23 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	24 森の畑 9:30畑	25	26 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	27 会報発送 13:00NC	28 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関前 チーム'街路樹20(受) 13:00市役所ランティAC (交流会)
29 チーム'街路樹20(受) 7:45R牛久改札集合 (研修見学会)	30 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	31 (休園日) 森の畑 9:30畑				

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください!

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結束町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日

(受): 受託事業

(特): 特別事業



編集後記

新緑・青葉・若葉・新茶・薫風・田植え・・・。
五月、この時期に書かれる文章の始まりのことは、
寒さ厳しい・暑さ厳しい・・・ということばと比べ
ると、この時期は周りが明るく何もかもが元気がよく
活動する季節になってきました。

「臥遊録」の「春山淡冶(たんや)にて笑うが如く、
夏山蒼翠(そうすい)にして滴るが如く、秋山
明浄にして粧(ま)うが如く、冬山惨淡として眠るが如し」。
この言葉は以前にも書きましたが、この春山の
「山笑う」とは草木が萌え始めた、のどかで明るい
春の山を表わします。

故郷やどちらを見ても山笑う 子規

今回、東関東大震災に遭われた被災地の皆さんに
は、この「山笑う」のことはあまりにも厳しくあ
りませんか。

今月号の本文に投稿しましたが、私は宮城県亘理
町に四日間支援に行っていました。

何もかも無くなってしまった被災地ですが、一日
も早く立ち直ることを祈るばかりです。

しかし、テレビでみた光景。それは何もなくなっ
てしまった住宅地の隅に咲く一輪のスイセン。何も
なくなってしまう海岸沿いに咲く一本の桜の木。
松林に一本だけが残った松の木。

被災地の人たちは、このスイセン・桜・松に力強
さと安らぎを感じたそうです。昨日もテレビで満開
の桜の下で元気にふるまう被災地の皆さんの姿を報
じていました。

亡くなられた方々のご冥福と被災者の一日も早い
復興をお祈り申し上げます。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年6月号の発送は5月27日(金)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いたします。